

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	地域・在宅看護概論	単位 1単位	在宅療養者と家族の特徴と人々の暮らしを支援するための法律や制度、在宅療養する対象の特徴について学ぶ			
担当講師	西山 玲子 臨床経験:10年以上 教育建研:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	在宅看護とは	社会の変化と在宅看護のニーズ 医療介護総合確保推進法と地域包括ケアシステム 地域の医療ニーズと医療連携 居住地域の地域包括ケアシステムの調査 居住地域のケアマップ作成 地域包括支援センターの役割と機能 在宅看護における看護師の役割と機能	講義	西山 玲子	基礎分野 文化社会学
	2					
	3	多職種との連携と協働	多職種・多機関 医療機関との連携、入退院時連携 地域ケアチームの連携と協働	講義		関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	4	社会資源の活用1	フォーマルサービス・インフォーマルサービス 介護保険法 介護保険制度(介護認定、介護給付、予防給付)	講義		専門分野 看護学概論 家族看護論 地域と看護 訪問看護技術
	5	社会資源の活用2	介護保険以外の関連する法律 医療保険制度、公費負担医療、難病法 障がい者総合支援法	講義		訪問看護の看護過程 老年看護学概論 老年援助論Ⅱ
	6	訪問看護制度	訪問看護制度 医療保険と介護保険の使い分け	講義		
	7	在宅療養者と家族	訪問看護の対象者の特徴 医療ニーズのある対象、小児の対象 認知症の対象、精神疾患の対象 在宅における家族看護 家族の発達課題、家族機能、家族アセスメント 介護力アセスメント、ジェノグラム、エコマップ	講義		
	8	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(6割) レポート(4割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	訪問看護技術	単位 1単位	在宅療養を可能にする訪問看護技術を学ぶ			
担当講師	小西 純子 臨床経験:5年以上 教育経験:2年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる					
目次	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	呼吸を守る看護技術	在宅療養における呼吸を守る看護とは 在宅療養における呼吸管理方法	講義	朝日 由岐子	基礎分野 人間工学
	2	呼吸を守る看護技術	非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)、 NPPVマスクの特徴・種類とフィッティング、 HOT機器の特徴と取り扱い	演習	小西 純子	
	3	呼吸を守る看護技術	在宅での呼吸リハビリテーション 排痰方法(スクイーミング、ハフフィンク)	講義	山口 勝生	専門基礎分野 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	4	呼吸を守る看護技術	排痰技術(スクイーミング、ハフフィンク)	演習(45分)	山口 勝生	病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	5	栄養を確保する看護技術	在宅療養における栄養を確保する看護とは	講義	横山 由起子	
	6	栄養を確保する看護技術	在宅中心静脈栄養法(HPN)管理とポート挿入 在宅での胃瘻の管理と接続方法	演習	梶原 直美	
	7	排泄を妨げない看護技術	在宅療養における排泄を妨げない看護とは	講義	朝日 由岐子	
	8	排泄を妨げない看護技術	在宅での洗腸、排便、陰部洗浄方法	演習	朝日 由岐子	
	9	排泄を妨げない看護技術	在宅でのストーマ管理とフランジ交換	演習	朝日 由岐子	
	10	在宅療養を可能にする創傷処置	在宅療養における創傷処置 在宅での褥瘡ケア、洗浄とドレッシング材の選択	講義	小西 純子	専門分野 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ
	11	在宅療養を可能にする創傷処置	在宅での褥瘡ケア技術	演習	小西 純子	経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ
	12	活動を可能にする在宅療養ケア	在宅療養における活動と休息 廃用予防のためのポジショニングとは	講義	小西 純子	訪問看護と看取り 訪問看護の看護過程
	13	活動を可能にする在宅療養ケア	布団、ベッドでの平行移動、座位、リフト移乗 関節拘縮を防ぐポジショニング	演習	小西 純子	ケアマネジメント演習 老年援助論Ⅱ 医療安全
	14	在宅での清潔ケアの看護技術	在宅療養における清潔ケアとは	講義	小西 純子	
	15	在宅での清潔ケアの看護技術	簡易洗髪器、バスタオルとビニールで作るケリーパッド を使用した洗髪、足浴 温タオルを使用した清拭	演習	小西 純子	
16	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(6割) レポート(4割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	訪問看護と看取り	単位 1単位	老いや病いを抱えながら在宅で暮らす人を支える看護を学ぶ			
担当講師	藤原 真由美 臨床経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師
1		看取りとは	終末期ケア、ターミナルケア、エンドオブライフケア、 看取りケアの考え方 在宅ホスピス、ホームホスピス、デイホスピス、 看護小規模多機能居宅介護、介護医療院	講義	藤原 真由美	基礎分野 心理学 文化社会学 教育学
2		看取りにおける倫理と日本人の 死の捉え方	安楽死、尊厳死 人間観、身体観、死生観、パターンリズム、 家族中心主義、儀礼的意味	講義		専門基礎分野 臨床薬理学
3		看取りにおける権利と 意思決定支援	インフォームドコンセント、アドバンスケアプランニング 事前指示書、DNAR	講義		
4		在宅の看取りにおける チームアプローチ	在宅ケアチーム、在宅移行支援、看護連携、 訪問診療、多職種連携とサービス、 デスカンファレンス	講義		専門分野 看護学概論
5		看取りの時期にある人の 特徴とケア	トータルペイン(全人的苦痛)とアセスメント、 死の受容過程とアセスメント、疼痛緩和ケア、 WHO除痛ラダー、がん疼痛の薬物療法に 関するガイドライン 倦怠感の症状アセスメント、臨死期の特徴的な症状 在宅サービスと療養環境整備、医療器材の整備 本人・家族の医療機器管理と医療処置	講義		経過に応じた看護技術Ⅱ 家族看護論 地域・在宅看護論 訪問看護技術 訪問看護の看護過程 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論
6		在宅の看取りケア	看取りをする家族、家族のセルフケア能力、 介護力、家族関係、死の準備教育、グリーフケア AYA世代、子どもの看取り	講義		
7		在宅における看取りの看護技術	オピオイド鎮痛薬、麻薬の取り扱い、PCAポンプ 経皮的オピオイド、NSIDS座薬の取り扱い エンゼルケア	講義 演習		
8		終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(6割) レポート(4割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	訪問看護の看護過程	単位 1単位	療養者と家族が地域で生活を継続していくための課題やニーズに応える看護過程を学ぶ			
担当講師	小西 純子 臨床経験:5年以上 教育経験:2年以上	時間数 15時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	在宅看護過程とは	在宅看護過程の構成要素 情報の整理・総合的機能関連図 訪問看護計画	講義	小西 純子	基礎分野
	2	認知症療養者の生活支援・社会資源の活用と訪問計画、援助の実際	総合的機能関連図の作成	講義 グループワーク	小西 純子	専門基礎分野 関係法規 I 関係法規 II
	3	パーキンソン病の療養者の生活支援・社会資源の活用と訪問計画、援助の実際	情報の整理	講義 グループワーク	小西 純子	社会福祉 I 社会福祉 II
	4		総合的機能関連図の作成	講義 グループワーク	小西 純子	専門分野 看護学概論 家族看護論 看護の思考過程
	5		看護課題の検討、訪問看護計画立案	講義 グループワーク	小西 純子	地域・在宅看護論 訪問看護技術
	6		訪問看護計画、援助の実施	演習	小西 純子	地域と看護 ケアマネジメント演習
	7		計画の評価・修正	講義 グループワーク	小西 純子	成人看護学概論 成人援助論III
8	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(5割) レポート(5割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	地域と看護	単位 1単位	看護の対象を生活者としてとらえるためには人の暮らしの場であり、生活背景である地域を知る必要がある。そのために地域での様々な取り組みに参加し、人々の暮らしと地域のつながりを理解する			
担当講師	西山 玲子 臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	暮らしとは	子育て、学ぶ、働く、病を治す、 老いとともに生きる、最後を迎えるなど、 発達段階やライフサイクル、ライフイベントなど 人々の多様な暮らしを学ぶ ※インタビュー (自分以外の2世代の人にする。) (日々の暮らしについて大変なこと、必要なこと、 気を付けていること、希望することなど)	インタビュー 視聴覚	西山 玲子	基礎分野 文化社会学 専門基礎分野
	2					
	3	暮らしと健康状態	自分自身の生活の仕方と健康状態の関連 生活と健康との関連について	グループワーク 発表	西山 玲子	専門分野 看護学概論 家族看護論 地域・在宅看護概論 訪問看護の看護過程
	4					
	5	地域について	地域とは、コミュニティとは 地域包括ケアシステム 地域の特性を査定する指標 地域の特性と人々の生活習慣 健康状態との関連を査定する指標	講義	村上 賀美	
	6					
	7	地域と看護	自分自身の居住地域の特性について調べる ・居住地域の安全、安心、健康に暮らすための コミュニティ活動について情報収集 ・活動のひとつを選び実際に参加するための 企画書を作成する		西山 玲子	
	8					
	9		活動へ参加	課外活動		
	10		・地域の人へのインタビュー (住みやすさ、希望など)			
	11					
	12		地域活動参加したものをまとめる ・暮らしと地域について	発表	西山 玲子	
	13					
	14					
15						
評価方法	パフォーマンス評価(課題、フィールドワーク、発表、授業態度、出席など総合的に評価) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	ケアマネジメント演習	単位 1単位	療養者と家族が希望する生活を支援するためのケアマネジメントを学ぶ			
担当講師	金山 裕巳 臨床経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	ケアマネジメント	ケアマネジメントの概念、対象者の自立支援とQOLの向上、自己決定支援 ケアマネジメントの構成要素 ケアマネジメントの機能 ケアマネジメントの過程、アセスメント、ケアプラン サービス担当者会議、モニタリング評価	講義	金山 裕巳	基礎分野 専門基礎分野 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ
	2	生活支援のための社会資源の活用	フォーマル・インフォーマルサービス、介護給付、予防給付の活用の実際、障害者福祉、生活保護、福祉一般	講義		
	3	介護保険による居宅介護支援の活用	居宅介護支援事業所、介護支援専門員の機能と役割、介護福祉士の機能と役割	講義		専門分野
	4	ケアプランと実践	ケアプランの実践に必要な多職種と多機関 多職種・多機関との連携と協働	講義		家族看護論 地域・在宅看護論
	5 6 7	ケアプラン演習	事例を用いてケアプランを立案する	演習		地域と看護 成人看護学概論 老年看護学概論
	8	終講試験	筆記試験			
	評価方法	筆記試験(6割) レポート(4割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院 強みと弱みからみた 在宅看護過程+統合的機能関連図 医学書院					